

不撓不屈

ふとうふくつ

つくばに移転

ペンギンシステム(茨城県つくば市) 最高技術責任者で常務の神池智生は2008年、同社の面接を受けるため、妻につくば研究支援センターまでの送迎を頼んだ。「面接を受けたらすぐ戻る。お店で待っていて」。それから3時間後に戻り、待たせた妻に叱られる。社長の仁衡琢磨は会社の強みを伸ばすため研究分野に注力しようと、つ

ペンギンシステム

③

二人三脚でヒット作

くば移転を決意した。06 同社に目がとまる。年8月、つくば研究支援センターに拠点を開設。また「ソフトの力で社セクターに拠点を開設。会をより良くしていこのちに東京オフィスを引き出した。自分ソフト開発しかできない。それなら役に立つ開発がしたい」。求人媒体中にあるたペンギンシステムの代表番号に電話した。神池は仁衡のアポイン

理念が一致

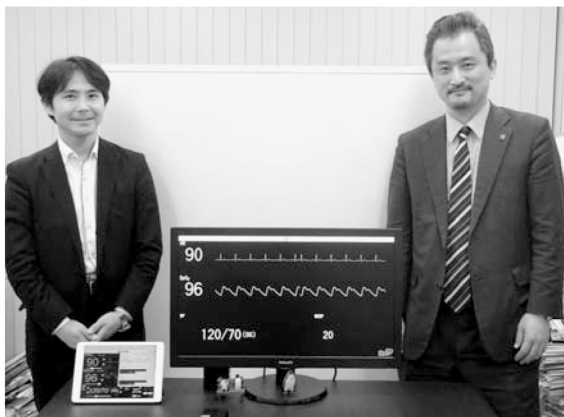
神池は、前職で企業向けソフトウェアの開発に携わっていた。当時のソフトウェア開発手法に限界を感じていた神池。もつと違う形で開発に取り組みたいと考えていた時、プロトタイプを繰り返すことで研究開発に寄り添う「スパイラル開発」手法を導入している

救命訓練ソフト 海外に波及

トを取ると同時に、妻とつくば市への引越準備に取りかかる。「次の職を探すなら伸び盛りの

地域で働きたい」と考えた。実際に会った時を「現場は我々に任せて、住んでいた神池にとつて、住み心地と働き口に恵まれていたのは記憶にない」と言われ、現場業務から離れることになる。

救トレはその後、「中小企業優秀新技術・新製品賞」などの賞を受賞。さらに、ロコモで東南アジアや欧米諸国など海外へ広まっていくことになる。(敬称略)



「救トレ」を紹介する神池常務(左)と仁衡社長

のだった。合い、一緒に働きたいと「媒体を通して考えるのも自然だった」すど手数料がと回想。神池も妻を待たかかりますよせていることを忘れるほね」と、直接ど仁衡との話に夢中になった。連絡を取ってきた神池の行動力に驚いた仁衡は、神池こうして神池が新たな仲間に加わった。翌年の09年、仁衡は神池から興味を持つ

教育向け開発

救急救命トレーニング用ソフト「救トレ」を手がけた。経営・営業の仁衡と、技術の神池という二人三脚体制はこうしてできあがった。

救トレはその後、「中小企業優秀新技術・新製品賞」などの賞を受賞。さらに、ロコモで東南アジアや欧米諸国など海外へ広まっていくことになる。